

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所長

令和 8 年度農作物病害虫発生予察情報について

令和 8 年度農作物病害虫発生予報第 5 号を発表したので送付します。

令和 8 年度農作物病害虫発生予報第 5 号

令和 8 年 7 月 3 日
徳 島 県

I. 普通作物

早期水稻

いもち病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 6 月 26～30 日に行った巡回調査では、発生圃場率が 16.7%、発病度が 0.9 と、平年(24.1%、1.2)並の発生である。
- (2) 高松地方气象台が 7 月 2 日に発表した 1 か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か少なく、日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉いもちの発生を認めたら、穂いもちへの移行を防ぐために薬剤の登録内容を確認の上、粒剤の場合は出穂 10 日前までに、液剤の場合は出穂直前までに防除を行う。また、出穂後曇雨天が続いた場合は、穂揃期にも防除を行う。

紋枯病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 6 月 26～30 日に行った巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が 7.1%、発病率が 1.0%)。
- (2) 高松地方气象台が 7 月 2 日に発表した 1 か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か少なく、日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し、基幹防除を励行する。

セジロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 6月26～30日に行った巡回調査では、発生圃場率が33.3%、株当たり虫数は0.0頭と、平年(22.9%、0.0頭)並の発生である。
- (2) 高松地方气象台が7月2日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か少なく、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生予察情報、ほ場の見回り等に基づき、適期の薬剤散布等を実施する。

斑点米カメムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 6月26～30日に行った水田周辺雑草地における生息調査(1地点当たり捕虫網20回振り)では、18地点のうち11地点で生息を確認した。捕獲地点率が61.1%と平年(48.7%)に比べてやや高いが、1地点当たりの捕獲虫数は4.8頭と、平年(3.5頭)並の発生である。
- (2) 高松地方气象台が7月2日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か少なく、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 斑点米カメムシ類の生息場所となる周辺雑草を、水稻出穂の10～15日前までに除去・処分する。
- (2) 出穂直前の除草は本田内に斑点米カメムシ類を追いつめることになるので行わない。
- (3) 出穂が早い圃場に集中して飛来する傾向があるので、周辺雑草地や本田での発生に注意し、発生を認めたら早急に防除を行う。
- (4) 薬剤散布については、液剤等で出穂期と乳熟期(出穂後約2週間頃)の2回防除を行う。

普通期水稻

いもち病

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 6月25～30日に行った巡回調査では、発生圃場率が39.1%、発病度は1.8と、平年(10.3%、0.2)に比べて高い。
- (2) 高松地方气象台が7月2日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か少なく、日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 曇雨天が続いた場合は急激に上中位葉へ病勢の進展が懸念されるため、天候に留意しながら薬剤散布を行う。

セジロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 6月25～30日に行った巡回調査では、発生圃場率が13.6%、株当たり虫数が0.0頭と、平年(15.5%、0.0頭)並の発生である。
- (2) 高松地方气象台が7月2日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か少なく、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生予察情報、ほ場の見回り等に基づき、適期の薬剤散布等を実施する。

サツマイモ

食葉性害虫(ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、ナカジロシタバ等) (ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウは令和8年6月5日付けで注意報発令)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多い(前年並)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 6月26～30日に行った巡回調査では、発生圃場率が50.0%と平年(63.1%)並の発生であるが、被害度は0.8と、平年(2.4)に比べて低い。
- (2) 6月のフェロモントラップへのハスモンヨトウの誘殺数は、ほぼ平年並に推移している(図1)。また、シロイチモジヨトウの誘殺数は1,055頭と、平年(356頭)の約3.0倍誘殺された(図2)。
- (3) 高松地方気象台が7月2日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か少なく、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、若齢幼虫期に徹底防除を図る。

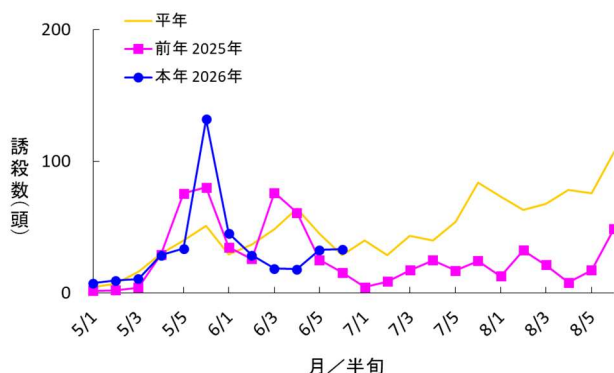


図1 ハスモンヨトウフェロモントラップ誘殺数推移(サツマイモ圃場)
* 徳島市、鳴門市、松茂町の4地点平均

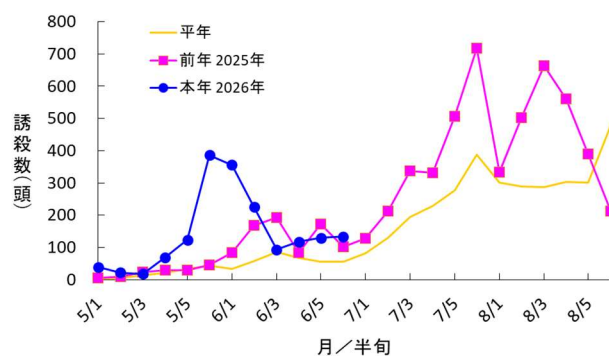


図2 シロイチモジヨトウフェロモントラップ誘殺数推移(サツマイモ圃場)
* 徳島市、鳴門市、松茂町の4地点平均

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 6月26～30日に行った巡回調査では、発生圃場率が62.5%、寄生葉率が9.3%と、平年(50.0%、10.5%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が7月2日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か少なく、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 葉裏にも十分な量の薬液が付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

Ⅱ. 果樹

ナシ

黒星病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 6月26～30日に行った巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が6.8%、発病葉率が0.1%)。

(2)高松地方気象台が7月2日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か少なく、日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)降雨が多いと被害が拡大するため、予防的な薬剤防除を行う。

ハダニ類

1)予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)6月26～30日に行った巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が17.5%、寄生葉率が0.8%)。

(2)高松地方気象台が7月2日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か少なく、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

(2)葉裏や徒長枝にも十分な量の薬液が付着するよう丁寧に散布する。

(3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

果樹共通

果樹カメムシ類(令和8年5月13日付けで注意報発令)

1)予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「多」

2)予報の根拠

(1)6月の予察灯調査において、勝浦町では、ツヤアオカメムシが916頭と、平年(239頭)の3.8倍、チャバネアオカメムシが728頭と、平年(72頭)の10.1倍誘殺された。また、上板町では、ツヤアオカメムシは212頭と、平年(75頭)の2.8倍、チャバネアオカメムシは319頭と、平年(94頭)の3.4倍誘殺された(表1)。

(2)高松地方気象台が7月2日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か少なく、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)果樹園周辺の山林や雑木林から成虫が飛来してくるので、園内を巡回し、飛来を認めたら早急に防除を行う。

(2)夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。

(3)移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

表1 予察灯への果樹カメムシ類の誘殺数

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月	半旬	勝浦町			上板町		
		2026年	2025年	平年	2026年	2025年	平年
6	1	139	0	28	48	1	9
	2	81	0	57	2	0	11
	3	155	5	26	24	1	11
	4	290	0	28	38	3	13
	5	144	4	47	41	1	18
	6	107	4	53	59	1	13
7	1		2	49		1	17
	2		0	25		3	14

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月	半旬	勝浦町			上板町		
		2026年	2025年	平年	2026年	2025年	平年
6	1	101	0	6	9	1	3
	2	18	0	7	39	0	6
	3	32	2	6	4	6	5
	4	251	0	7	174	2	14
	5	192	0	9	70	1	15
	6	134	3	39	23	1	50
7	1		1	53		0	69
	2		0	73		0	59

Ⅲ. 野菜

夏秋ナス

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 6月25～30日に行った巡回調査では、発生圃場率が11.1%、発病葉率が0.2%と、平年(6.7%、0.4%)並の発生である。
- (2) 高松地方气象台が7月2日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か少なく、日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 窒素質肥料の過用を避ける。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 6月25～30日に行った巡回調査では、発生圃場率が33.3%、1葉当たりの寄生虫数が0.1頭と、平年(17.8%、0.0頭)に比べてやや高い。
- (2) 高松地方气象台が7月2日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か少なく、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 6月25～30日に行った巡回調査では、発生圃場率が66.7%と、平年(33.9%)に比べて高く、寄生葉率は2.1%と、平年(1.2%)に比べてやや高い。
- (2) 高松地方气象台が7月2日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か少なく、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 葉裏にも十分な量の薬液が付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

オオタバコガ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 6月25～30日に行った巡回調査では、産下卵発生圃場率が22.2%、100葉当たり産下卵数が0.3個と、平年(30.9%、0.6個)並の発生である。また、幼虫による被害果実の発生圃場は、発生圃場率が11.1%、被害果率が0.1%と、平年(5.2%、0.1%)並の発生である。
- (2) 6月のフェロモントラップへの誘殺数は、平年並に推移している(図3)。
- (3) 高松地方气象台が7月2日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か少なく、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 被害部位(果実、花蕾)やせん定後の茎葉には卵や幼虫が付着している可能性があるので、圃場外に持ち出して適切に処分する。
- (2) 果実や茎、花蕾に食入した幼虫や、発育が進んだ幼虫に対しては薬効が著しく低下するので、発生初期に薬剤防除を行う。
- (3) 本虫は作物の花蕾や生長点付近の新葉に1個ずつ産卵するため、寄生部位を注意深く観察してから防除する。

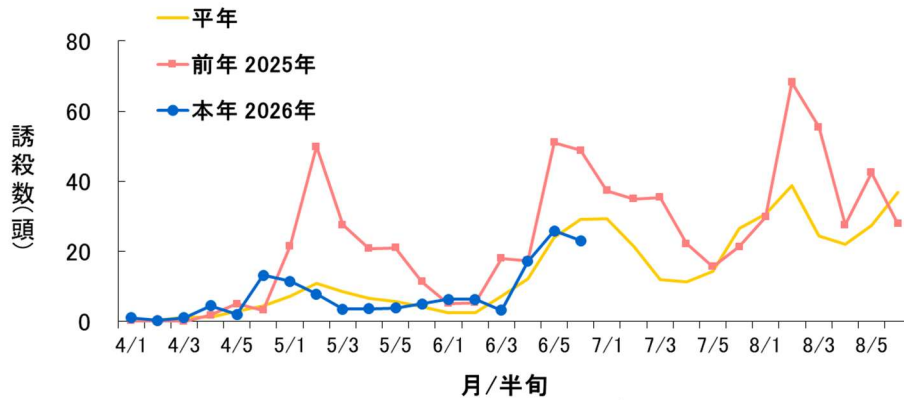


図3 オオタバコガ フェロモントラップ誘殺数推移
*阿波市、三好市、東みよし町、石井町の6地点平均

IV. その他

- 1) 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所

URL: <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujosho/>

○ 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。